



泰山木

ホームページ <https://bakuro-e.takaoka-school.jp>

「社会科」と私

校長 西川 敦子

私の専門教科は「社会科」です。

社会科を専攻したのには、恩師のA先生との出会いが大きく影響しています。小学5・6年生のときの担任で社会科専攻の方でした。当時としては、かなり型破りな授業をされました。「教科書はあくまでも教科書。だが、基本は大事だから読んでおきなさい」といったふうです。そして、学習課題は徹底して自分たちの生活に密着したもので、今の総合的な学習の時間のような学びを私たち子供に体験させてくださいました。授業の腕は抜群で、時々NHKの方が取材に来たほどです。昭和時代の子供ですから、テレビに映るのがうれしくて、学級全員、張り切って発言しました。社会科を核に学級づくりをするプロフェッショナル教師でした。漠然と、私も教師になりたいなあとおこがれをもつようになりました。

いよいよ、自分自身が教壇に立ちました。再び、すてきな出会いが訪れます。2つ目の赴任先でB先生と出会いました。社会科専攻の方でした。

B先生から、子供主体で進める「問題解決(的)な学習」についてとことん教わりました。教師が全てを教え込むのではなく、子供自身が問題を発見し、その問題解決に向けて粘り強く追究していく。そのため、学習課題を設定するところから子供たちと一緒にやりました。今の「問題発見・解決学習 (Problem Based Learning)」に通ずる学習です。

ちなみに、B先生と私は多動なところがそっくりでした。あるとき、「郷土を開いた人々」の視聴覚教材をつくるため、用水を下流から上流の取水口まで撮影に行ったことがありました。当時のビデオカメラは重く、今の私なら断念していたことでしょう。しかし、私たちはやりたい衝動を抑えきれない性分だったため……やり抜きました。先日、B先生と会食したとき、「用水だけでなく、いろんな所に突撃取材に出かけたよね」という話になり、自分たちの多動さに改めてあきれました。B先生とのゆかいなエピソードは山ほどあります。

B先生の紹介で、全国規模の社会科研究団体にも参加しました。年に一度の全国集会では、他県の仲間と社会科について夜遅くまで熱く語り合いました。授業のヒントをたくさん得ることができ、学校にもち帰っては授業改善につなげました。昨夏は、コロナ禍を経て仲間と再会を果たしました。

A先生との出会いから50年、B先生との出会いから35年。二人の先生方の導きで、私はずっと、社会科のほか、生活科、総合的な学習の時間等でも「問題解決(的)な学習」の研究を続けています。小学生で出会った「社会科」は、私に教員への道を開き、教員としての私を育ててくれました。そこには、数多くのすてきな出会いがあったことを最後に申し添えたいと思います。



1・2月の博勞っ子



【1月19日】地震対応避難訓練（全校）

在校時における避難方法、避難行動について、全校で確認する場をもちました。



【1月18日】南星中出前授業（6年）

中学校教員による家庭科授業です。



【1月22日】薬物乱用防止教室（6年）

「薬物、絶対ダメ」の誓いを立てました。



【2月2日】スキー学習（5, 6年）



【2月13日】研究授業（3年）



【2月7日】授業参観（全校）今年度最終の授業参観でした。子供の成長が光りました。



1年 生活科



2年 算数科



4年 総合的な学習の時間

今年度の学校だより「泰山木」は、今号が最終号です。一年間、どうもありがとうございました。